

認知症とともに生きるまちづくりに関する連携協定の締結について

市は、「認知症とともに生きるまちづくり」を連携して行うため、一般社団法人Dフレンズ町田（以下「DFM」という。）と協定を締結します。

1 背景

町田市は、これまで目指してきた「認知症の人にやさしいまち」をさらに進め、支援する側・される側という垣根を超えた「認知症とともに生きるまち」の実現に取り組んでいます。このため、今後は認知症の人が気軽に集える「Dカフェ」や認知症の正しい理解を啓発する「まちだDサミット」等に加え、認知症の人と地域住民とが共に役割をもって活躍できる機会の創出が重要であると考えます。

また、認知症のうち若年性認知症は、制度の狭間で支援が届きづらいことが指摘されています。東京都では「東京都若年性認知症総合支援センター」を設置し、就労をはじめとした総合的な支援を行っていますが、町田市民の利用実績は年間3件程度であり、十分な活用が出来ているとは言えません。このような既存機関を十分に活用するための周知やサポート、それ以外にも、身近な場所で当事者同士が集える機会を創出する等、若年性認知症の人を地域で支える体制の構築が求められています。

2 協定の目的

本協定は、市とDFMが連携して以下の2項目について取り組むことにより、「認知症とともに生きるまち」の実現を目指すことを目的とします。

- (1) 認知症の人やその家族と地域住民が共に活躍できる機会の創出
- (2) 若年性認知症の人やその家族の支援体制の構築

3 期待される効果

本協定の締結により、市はDFMが持つ支援のノウハウを地域での取組に生かす他、認知症サポーター等に提供することができます。また、DFMが相談窓口等で得た若年性認知症の人の声やニーズを市に提供いただくことで、今後の施策立案に役立てることができそうです。

一方、DFMにとっては、市がDFMの事業を広く周知することで活動がしやすくなり、さらに認知症の人とのネットワークが広がる等、事業の発展が期待できます。

4 協定内容

(1) 認知症の人やその家族と地域住民が共に活躍できる機会の創出

- i 「認知症とともに生きるまち」の実現に向けた普及啓発
- ii 認知症の人やその家族の居場所づくり
- iii 認知症の人やその家族の声の収集、発信
- iv その他、甲及び乙の協議に基づく連携事業に関する事

(2) 若年性認知症の人やその家族の支援体制の構築

- i 若年性認知症の人やその家族からの相談対応及びニーズ把握
- ii 若年性認知症に関する支援機関の周知・情報提供
- iii 若年性認知症の人やその家族に関する施策の検討
- iv その他、甲及び乙の協議に基づく連携事業に関する事

5 DFM について

DFMは、町田市の委託を受けて「Dカフェ」や「まちだDサミット」等を運営する法人であり、認知症の取組について、地域に根差した活動を展開しています。

市の委託事業の他にも、認知症の人が北部丘陵の竹林を整備する事業や、認知症の人の買い物を支援する事業等、認知症の人の居場所や活動の場の創出に関する独自の取組を実施しています。また、若年性認知症についても、診断直後の不安や生活上の悩みを相談できる窓口を設置する他、当事者同士が集まって日頃の暮らしや症状等について考える交流会を開催し、若年性認知症の人が自分らしく生活するためのサポートを行っています。

<DFMに委託して実施した取組>

- 16のまちだアイ・ステートメントの作成(2016年度・2017年度)
- Dカフェの開催(2017年度～)
- まちづくりワークショップ(2017年度～)
- まちだDサミットの実施(2018年度・2019年度)
- 冊子「認知症になっても私はわたし」の作成(2020年度)

6 スケジュール

2021年9月 協定締結、記者会見

協定締結後、広報まちだや町田市ホームページで、DFMが設置する若年性認知症の相談窓口について周知を開始します。